

研究課題名

腹部 US 汎用装置を用いた肝硬度測定 of NAFLD 肝線維化評価における有用性
—特に FIB-4 index 及び血清肝線維化マーカーと対比して—

研究の目的及び概要

脂肪肝のある患者さんでは、肝臓の線維化が進行すると肝硬変から肝細胞癌に至る可能性があり、肝臓の線維化を適切に評価する必要があります。

肝臓の線維化を評価する方法としては、肝生検といって肝臓に針を刺して組織を取るのが一番確実ですが、体への負担が大きく、また頻回にできるものでもありません。

そこで、なるべく患者さんに負担がかからない方法で肝臓の線維化を評価する方法として、採血検査としては、AST・ALT・年齢・血小板数から算出される FIB-4 index や、線維化マーカーと言われる血液検査 (IV 型コラーゲン・ヒアルロン酸・M2BPGi) 等があります。

また腹部エコー検査で、肝硬度を測定することにより線維化を評価することができます。

この研究では、脂肪肝のある患者さまの肝臓の線維化がどの程度進んでいるのかを評価する方法として、採血検査の結果と腹部エコー検査の結果を用いてその有効性を比較検討します。

具体的には 2020 年 4 月から 2022 年 7 月にかけて腹部エコー検査にて非アルコール性脂肪肝疾患 (NAFLD) と診断された患者さんがこの研究の対象になります。対象者の方々の診療記録と検査データを用いて、後ろ向きに分析を行い、腹部エコー検査での肝線維化評価の有効性を確認します。

検査データやカルテに含まれる情報をこの研究に使用する際には、個人の氏名の代わりに研究用の番号をつけて執り行います。またカルテを閲覧する研究者は最小限とします。

研究用の番号がどなたのものであるかを示す対応表のファイルは、パスワードをつけて病院内のインターネットに接続しないコンピュータに保管致します。研究成果の発表に際し、個人が特定できるような情報が公開される事はありません。

研究責任者

松波総合病院 消化器内科 浅野 剛之

TEL:058-388-0111 (代)

FAX:058-388-4711